

令和6年度第2回高知県産業振興計画フォローアップ委員会観光部会 議事概要

日時：令和7年1月28日（火） 15:00～17:00

場所：高知サンライズホテル 2階「向陽の間」

出席：部会員10人中、7名が出席

議事：（1）第5期産業振興計画＜観光分野＞の取り組み状況等について

- ・観光分野の令和7年度の取り組みの強化のポイント

議事（1）について、県から説明し、意見交換を行った。（主な意見は下記のとおり）

議事については、すべて了承された。

（1）第5期産業振興計画＜観光分野＞の取り組み状況等について

（観光分野の令和7年度の取り組みの強化のポイント含む）

（三井部会員）

- ・ニューヨークタイムズが、2025年度に52都市のうち行くべき都市として富山を選んでいる。2024年度は山口市が第3位に、2023年度は盛岡市が第2位に選ばれている。調べてみると、選ばれた理由としては、食べ物が美味しい、歴史があるといった点であった。この3都市に共通するのが、人口およそ30万人前後の県庁所在地。加えて、コンパクトでオーバーツーリズムとなっていない街となっているため、まさに高知市はぴったり当てはまるのではないかと。何もしなくても選ばれるかもしれないが、積極的にアプローチをされてはどうか。

（小西部長）

- ・ニューヨークタイムズに、こういった内容で選ばれると訴求力が強くなると思うが、こちらから積極的にアプローチをかけるべきかといったことは、少し議論が必要になるかと思う。他の自治体がこういった動きをしているのかといった点をしっかりと勉強していきたいと思う。
コンパクトに観光でき、食べ物が美味しい、歴史があるといった点は、富山に引けをとらないと思うので、いろいろとチャレンジしていきたい。

（森部会員）

- ・台湾のチャーター便について、引き続きチャーター便のままなのか、それとも定期便になるのかといったところを伺いたい。
- ・空港の国際便対応の整備も進められていくとお聞きしたが、四国4県が1つとなり、まとまった動きをしないと四国4県がバラバラなセールス活動になってしまう。新規でセールス活動する際は、四国4県で話し合いをし、四国の中で路線の取り合いにならないようにうまく分散してはどうか。
- ・今年の万博でデビューする「空飛ぶクルマ」は2030年あたりから一気に世界で広がるという話がある。実証実験の候補地に手を挙げて欲しいという話が出ており、そのなかで

高知県も話を聞いたとお聞きしている。具体的な動きがあればお聞きしたい。

- ・南高校の跡地や県民体育館の再整備等の話があったが、防災と観光をセットで考えてはどうか。普段の平時は、観光目的で使用して、緊急時には防災・医療基地として使う。「空飛ぶクルマ」も同じで、防災と観光をセット使えるのではないかな。

(小西部長)

- ・まず、台湾のチャーター便について、現在4月以降の運行について国に申請しているという情報を得ている。許可がおりれば、引き続きチャーター便として運行していくこととなる。どうしても、高知龍馬空港の整備等を経て定期便という形になるため、しばらくはチャーター便の運行となる。
- ・四国4県がひとつとなり、世界と繋がるのは重要だと考えている。路線の誘致については、例えば韓国や台湾といった訪日客が多いところについては、それぞれの県が路線を誘致し、プロモーションは共同でやっていくといった戦略がいいのではないかと考えている。中距離のインドやベトナム、タイといった路線は、四国4県でこういった整理が必要かの検討はできるのではないかなと思う。

(中村課長)

- ・「空飛ぶクルマ」については、土佐経済同友会さんのご支援もあり、これまで県内で3回ほど勉強会を開催してきた。現在は、観光振興スポーツ部と危機管理部が窓口となり、先日、経済産業省の方ともオンラインで話をさせていただき、今後も定期的に情報収集をしていくこととなっている。おっしゃったように、平時は観光で使い、有事が起きた際は防災として活用していくといった形で実現できるように勉強していきたいと考えている。

(古谷副部会長)

- ・民泊の研修会について具体的にどういった対応してるのかを教えてください。

(仙頭課長)

- ・新規の受け入れ家庭向けの研修であり、広域観光組織等と連携をして、新規の家庭の掘り起こしを図っている。他のエリアの動き方を学ぶための研修等も今年度開催している。

(古谷副部会長)

- ・民泊の事業者にも、高知県旅館ホテル生活衛生同業組合の各支部の情報をお伝えいただきたい。加入すると、NHKの受信料が安くなったり、共同購入ができるといったメリットがある。

(仙頭課長)

- ・民泊をされている方の中には、宿泊業を営まれている方もいるので、高知県旅館ホテル生活衛生同業組合のサポート等がいただけるというところは非常に心強い。いろいろなアイデアとかノウハウを教えてください、一緒に取り組んでいけたらと思う。

(鎌倉部会員)

- ・今年度は、らんまんからの反動減にあたる年で、うちが所管している施設も全般に少なめの状況となっていて、観光という点で一番強い坂本龍馬記念館が、概ね9割ぐらいの

状況。説明では、県全体の主要観光施設は93%程度で堅調だということだったが、全体の数字が出たときに、何が功を奏して堅調だったのかをしっかりと分析することで、次に繋がっていくと思う。

- ・第1回の観光部会のときに、黒笹部会員が特にインバウンドは体験が重要とおっしゃっていたが、体験とは一概にアクティビティに限らず、例えば「着物を来て京都のまちを散策する」といったことなども体験なんだろうという気がする。そのような体験のやり方もいろいろあると思うので、幅広いアイデアで取り組まれたらいいかと思う。
- ・それと関連するが、よそへ観光に行ったとき、その地の人になってみてその地の人のように楽しみたいという欲求がある。ひろめ市場などはいいい例。一方で、観光客向けというのは何となくしらけてしまう。したがって、まずは高知県民が楽しむ必要があると思うので、県外に広報するのと合わせて県内にも十分広報して、県内でそういう素地を作っておくことが大事だろう。
- ・高知県は、県民が面白いとか県民性に特徴があるということをよく聞く。例えば、「高知県人とは？」と県民の方にアンケートを実施したり、高知にいらっしゃっている支店長さんなどに聞き、県民性を見える化して観光に生かしていけばいいと思う。
- ・県民体育館等の再整備でプロ競技を誘致するといった話があったが、例えばサッカーや野球は多くの観客が入る施設が必要となりハードルが非常に高くなるが、バスケットやバレーボール等は、県民体育館の敷地面積でもやりようによっては可能なかを聞きたい。

(小西部長)

- ・主要観光施設について、らんまん効果が放送後も続いているということが、数字から見て分かる。高知県立牧野植物園や佐川町等も、まだまだ多くの方が訪れていただいている。あんぱんでも、しっかりと取り組みを進めていき、県内周遊を継続させていきたい。
- ・坂本龍馬生誕190年ということで、どっぷり高知旅の中でも「坂本龍馬にどっぷり」といった形で、何か打ち込みをしていきたいと考えているので、ご協力をいただきたい。
- ・インバウンドでは、「体験」は非常に大事なもので、お茶を体験してもらおうとか、着物を着てもらおうといった取り組みも、民間の方で少し始まってきている。こういったことを、しっかりと広めていくということも大事だと考えている。
- ・アメリカ出身のジャーナリストの方とお会いしたとき、高知は良さは「フレンドリー」と言っていた。こういった良さも高知の特徴としてPRしていきたい。
- ・地元ならではの観光スポット、自然、歴史、食、文化や暮らし、人などオススメしてもらおうコンテストも実施したところ。このデータもうまく活用した仕掛けも考えていきたい。
- ・県民体育館等の再整備については、バスケットボールのBリーグで言えば5,000席が1つの基準になっている。駐車場や部分部分の工夫は一定必要であるが、5,000席のアリーナは建てることができると考えており、詳細を来年度詰めていく考え。

(古谷副部長)

- ・先ほどのバスケットボールの情報を詳しく聞きたい。

(三谷振興監)

- ・バスケットボールについては、現状Bリーグに参入を目指すチームがあると言われると、現状はないと思う。ただ、バスケットの関係者からは、何とか盛り上げて、地元で育てあげたいという思いが強くあるとお聞きをしているので、県民体育館の再整備等を契機として、チームの育成をしっかりと応援できるようにしていきたいと考えている。

(小西部長)

- ・今までは、温暖な気候を生かした屋外スポーツのプロを誘致してきたが、今後は、体育館の整備に合わせてインドアのプロスポーツに対象を広げていくよう、来年度以降頑張っていきたいと考えている。

(古谷副部長)

- ・12月、1月、2月と宿泊ニーズが下がるころなので、ぜひ取り組みをお願いしたい。

(町田部会員)

- ・県内外のシェフ達と地域を元気にするといったプロジェクト活動をしており、シェフを高知にお招きをしているが、レンタカーや宿の予約が取れないことが多々ある。そこで、閑散期の可視化ができれば、多くの方に高知に来ていただけたらと思う。混雑を避けて来ていただけたら様々なことがスムーズで動きやすいですよといったこともアピールできるのではないかな。

(小西部長)

- ・なかなか難しい部分はある。宿泊で見れば、稼働率は50～60%の間なので、宿泊可能だと思うが、金曜日や週末は予約が取りづらいという話はよく聞く。

(古谷副部長)

- ・ゴールデンウィークの時期とか、春休み時期とかは稼働率が高い。ゴールデンウィーク後は、人の行き来が少し止まるので、予約は取りやすい。ただ、夏場になると、よさこいの関係で予約がとりづらくなる。

(小西部長)

- ・週末は避けていただいた方がいいのかなと思う。先ほどご説明したように、新たな分散型の宿泊施設もできはじめているので、そういった情報を活用いただければと思う。
- ・閑散期の対策としては、平日の宿泊を増やしていくという新たな取り組みを進めていきたいと考えている。愛知県で既にこういった取り組みを進めており、県内の事業者の皆様にもご協力をいただきながらキャンペーンを実施していきたいと考えている。

(樋口部会員)

- ・県の人口が減っているなかで、県内の活性化として観光部門への期待は大きいので、ぜひ目標を高く持って、実行と目標達成をいただければと思う。
- ・公共交通や旅行部門でいうと、やはり観光政策は希望の光となるので、目標を保守的に立てるといったことはないように、頑張っていきたい。

(小西部長)

- ・おっしゃるとおりで、高い目標を持ち続けることが大事。観光やスポーツツーリズムの分野が、人口減少が進むなかで、経済の活性化、外貨を稼ぐ、人を呼んでくるといったことに繋がり、拡大をしていくべき分野だと思っている。目標を超えるように精一杯取り組みを進めていきたいと思うので、応援をお願いしたい。

(新開部会長)

- ・平日に行きたくなる理由を考えれば、自ずと観光客が来るのではないかと。特典として、割引などではなく付加価値を付けることができれば「行ってみよう」となる。
- ・インバウンド誘客で、インバウンドを増やすにはアウトバウンドが大事で、双方向の交流が大事だとよく言われる。アウトバウンドへの取り組みの強化もセットで検討していく必要があると思う。高知県民は、パスポートの取得率が低いと思うので、海外に行くためのきっかけづくりも検討してみてもどうか。
- ・二次交通が不足をしてるので、なかなか長期滞在ができない。例えば、主な二次交通の手段であるレンタカー向けの施策を何か検討してはどうか。

(小西部長)

- ・平日宿泊について、付加価値についてもホテル・旅館の皆様ともしっかりと話をしていきたい。
- ・パスポートの取得率について、確かに低い数字となっている。台湾の定期便化に向けては、相互の交流が必要だと感じている。民間の交流を増やしていくのが、底堅い需要を作っていくことに繋がり定期便化には重要だと考えている。スポーツ交流も深めながら、しっかりと対応をしていきたい。
- ・レンタカーについては、レンタカー事業者の皆様とキャンペーンが一緒にできないかといった議論も踏み込んでいきたい。

(三井部会員)

- ・クルーズ船の方は、MY 遊バスを利用して高知城、竹林寺、牧野植物園に行っているが便数が減ってしまったため、時間に制約があり厳しい。来年度は70隻以上のクルーズ予約が入っているとお聞きしているので、クルーズ船が来た際は、土日祝ダイヤでの運行にできないか。

(小西部長)

- ・MY 遊バスについては、可能な限り検討はしていきたいが、バス運転士の手配等、以前のように臨機応変な対応が難しいといった状況もあるとお聞きしている。できるだけ満足いただけるように、働きかけていきたいと思うので、ご理解いただければと思う。
- ・最後に、皆様方の貴重なご意見、ありがとうございました。

(以上)